

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

《5月の病虫害発生予報》

<作物>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				ばか苗病		
			もみ枯細菌病			
				縞葉枯病		
			ヒメビウカ			
				イネミズゾウムシ		

<果樹類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				灰色かび病		
もも					せん孔細菌病	
みかん				黒点病		
				そうか病		
				コナジラミ類		
				ミカンハダニ		
				アブラムシ類		
果樹類全般				果樹カメムシ類		

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
				灰色かび病		
				うどんこ病		
			ミナミキイロアザミウマ			
トマト			葉かび病・すすかび病			
					灰色かび病	
				コナジラミ類		
たまねぎ			べと病			
			白色疫病			
			ボトリチス葉枯症			
				ネギアザミウマ		

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				アブラムシ類・ウイルス病		
			ミカンキイロアザミウマ			
			ハモグリバエ類			
				コナジラミ類		
				ハスモンヨトウ		

《今月のトピックス》

■発生が平年よりやや多く見られる病害虫

【もも・トマト】

病気や害虫は発生初期の防除が重要です。昨年度多く発生した もものせん孔細菌病は、今年もやや多い発生が認められました。また、トマトの灰色かび病もやや多い発生でした。

■現在、発生は平年並だが、今後の発生に注意が必要な病害虫

【なす】

うどんこ病・灰色かび病
(曇天・過湿が続くと発生する)

【野菜類・花き類】

コナジラミ類
(ウイルスのまん延に注意)

《(参考)5月の気象予報》(大阪管区気象台 4月20日発表)

気温	低い (20%)	平年並 (40%)	高い (40%)
降水量	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)
日照時間	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の葉いもち及び穂いもちの発生は平年並からやや少なかった。 ・向こう1ヶ月の気温は高く、降水量は少ないと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にし、充実した種もみを選別する。 ・種もみを温湯消毒する場合、処理温度、消毒時間等、適正に処理する。 ・種子消毒を徹底する。消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県においてQoI剤耐性菌の発生が報告されている。 …QoI剤成分例：アゾキシストロビン（アミスター）、メトミノストロビン（イモチエース、オリブライト）、オリサストロビン（嵐）等
ばか苗病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にし、充実した種もみを選別する。 ・種もみを温湯消毒する場合、処理温度、消毒時間等、適正に処理する。 ・種子消毒を徹底する。消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ・前年発生の多かったところでは、耐性菌発生の可能性があるため、薬剤の種類を変える。

		<ul style="list-style-type: none"> 発病が認められた場合、株が枯死する前に抜き取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 育苗を苗代で行う場合、高温であると発生が多くなる。
もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 塩水選を確実にやり、充実した種もみを選別する。 種子消毒を徹底する。消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 出芽時の高温は発病を助長するので、温度を30℃以下にする。
縞葉枯病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の巡回調査では、平年並だった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 育苗ほへのヒメトビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地周辺での育苗は避ける。 水田、畦畔の除草を田植前までに行う。 ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。 府内のひこばえ調査(H28.11)では、縞葉枯病罹病株が見られた。
ヒメトビウンカ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 密植を避けて通風を良好にするとともに窒素質肥料の過用を避ける。 育苗箱に箱粒剤等を施用する。 イネ科雑草で越冬するため、まだ耕起していない水田では早めに耕起して、密度低下を図る。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 縞葉枯病を媒介する。
イネミズゾウムシ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年の発生は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 極端な早植は越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。 移植後は浅水に管理し、健全な発根を促す。 発生の多い所では、薬剤を育苗箱施用する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼虫は根を食害し、成虫は葉をかすり状に食害する。 中山間の水田で発生しやすい。

B 果樹

1 ぶどう (デラウェア)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。 ・落花直後の花かすを取り除く。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多い発生であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる春型枝病斑は除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期の防除を徹底する。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	---	---

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿における果樹カメムシ類の発生は「やや高い」と予想されている（農林水産省：平成29年4月19日付け「平成29年度病害虫発生予報第1号」）

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。（QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。） <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が23～28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並だったが、がくへの感染が目立った。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花弁からの感染が多いので花弁の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

うどんこ病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注処理により剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウストマトでの発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
灰色かび病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウストマトでの発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。

コナジラミ類・ トマト黄化葉 卷病 (TYLCV)	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月の巡回調査では、ハウストマトでの発生は平年並からやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設では、開口部を寒冷紗等 (0.4mm 目合) で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ほ場周辺の除草にも努める。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 感染株は見つけ次第抜き取り土中に埋める等処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミはトマト黄化葉卷病 (TYLCV) を媒介する。
---------------------------------	------------	---

3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年より少なかった。 一部ほ場で二次感染株が見られた。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ほ場の排水を良くする。 すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。 発病した株は翌年の感染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。 現在、発生のないほ場でも、予防的に薬剤散布を行う。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に、QoI 剤、CAA 剤、フェニルアミド系は耐性菌が発生しやすいため連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> べと病は多湿、日照不足で多発する。気温が 15℃前後で、降水量が多いと増加する。特に4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと発生が多くなる。葉に黄変を生じず、突然灰色～黒色のかびを生じることもある。
白色疫病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、一部ほ場で発生が平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 白色疫病は多湿、日照不足で多発する。
ボトリチス葉枯症	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、一部ほ場で発生が平年やや少なかった <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高うねにするなど、ほ場の排水に努める。 収穫後の残さはすみやかに処分する。

ネギアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並みだった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
---------	---	--

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並だった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス (CMV) などがある。
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス (TSWV) を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1日間太陽熱により土中の蛹を殺すこと（晴れの日に丸1日ビニール1枚敷き）で、次作の被害を軽減できる。（4～10月の間可能。但し4、10月は効果が

		やや低い。) <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。
コナジラミ類	並～ やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・なす、トマトの巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・黄色粘着トラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。 [メモ] <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) を媒介する。
ハスモンヨトウ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並だった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期 (若齢幼虫期) に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)